

## 苦しんでいる人は祈りなさい

ヤコブの手紙 5章 13-18節

### はじめに

私たちの教会では、毎月テーマを決めています。そして毎月第一週の礼拝の説教は、その月のテーマに従って説教をしています。今月のテーマは、「デボーション」です。デボーションとは、毎日神様に祈り、聖書を読むことです。今日は、ヤコブの手紙から「祈り」について学びたいと思います。

### 1. 苦しい時、喜びの時には

13節には、「**あなたがたの中に苦しんでいる人がいれば、その人は祈りなさい。喜んでいる人がいれば、その人は賛美しなさい**」とあります。私たちは人生の中であらゆる苦しみを経験しますが、その時に私たちがまずすべきことは「祈り」だと言うのです。もちろん苦しみの原因は様々ですから、苦しみを解決するために具体的な行動も必要でしょう。しかし、私たち三位一体の主なる神様を信じるクリスチャンがまず第一にすべきことは、「祈り」ではないでしょうか。

旧約聖書の詩篇には、こうあります。「**私は山に向かって目を上げる。私の助けは、どこから来るのか。私の助けは主から来る。天地を造られたお方から**」(詩篇 121:1-2)。私たちの助けは、全世界を支配し、歴史を導いておられる主なる神様から与えられます。神様があらゆる状況を用いて、あらゆる人を用いて、私たちを助けてくださるのです。私たちの助けの根源は、神様にあります。ですから私たちは、苦しみの時にはまず神様に祈ることが大切なのです。

そして私たちは、喜んでいる時、元気な時、平安な時には、神様を賛美しなさいと言われます。それは、私たちの喜びの根源、祝福や恵みの根源は神様にあるからです。ですから、喜んでいる時、元気な時、平安な時には、神様に感謝を込めて賛美し、神様の栄光をほめたたえるのです。

私たちの助けの根源は神様にあり、私たちの祝福や恵みの根源も神様にあります。大切なことは、私たちは、逆境の時も順境の時も、いつでも神様に向かって声をあげることです。苦しい時にはまず神様に助けを求め、喜んでいる時にはまず神様に感謝をささげることです。私たちは、浮足立ってすぐに具体的な行動に走ってしまうのではなく、自分自身や誰かに頼ったり栄光を帰してしまうのではなく、まず神様に祈り、まず神様に感謝や賛美をささげる、そういう癖や習慣を身に着けておくことが大切だと思います。

### 2. 特に病気の時には

私たちが人生で経験する苦しみの中でも、病気は大きなものです。自分の病気や家族の病気は、私たちに大きな苦しみをもたらします。14 節にはこうあります。「**あなたがたのうちに病気が人がいれば、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい**」。苦しみの時は祈ることが大切ですが、特に病気の時自分だけで祈るだけでなく、教会の長老たちに祈ってもらうことが大切だと言われています。この「長老」というのは、牧師を含めた長老です。ここでは「長老たち」とありますから、牧師ひとりだけではなく、複数の長老たちに祈ってもらうことが大切なのです。

牧師や長老は、特に病気の人のために祈る責任があります。ですから、礼拝の「牧会と宣教の祈り」では、必ず病気のことを覚えて祈ります。そして時には、病床に訪問して祈りに行きます。

ここでは、「主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい」とあります。祈ることは分かりますが、なぜオリーブ油を塗ることが求められているのでしょうか。聖書の中で、「オリーブ油」は様々な時に用いられます。料理に、火をつけるために、傷を癒すために、化粧のために、また王や祭司や預言者を聖別する時に用いられます。ここでは、傷を癒すための薬としてオリーブ油を塗るということが一つあると思います。祈りだけでなく、薬を用いる、この薬の効果が表れるように祈るということでもあると思います。現代で言えば、祈りだけでなく、病院での治療も受ける、そして病院での治療が効果が表れるように祈るということでもあると思います。

しかし「主の御名によってオリーブ油を塗る」とありますから、医療的な意味だけではないと思います。イエス様は「キリスト」であり、「キリスト」は「油注がれた者」という意味です。イエス様は、王・祭司・預言者として御業をなされます。その意味で、オリーブ油を塗るというのは、イエス様の臨在を現すのかもしれない。また聖霊も「油」に象徴されることもあります。ですから「主の御名によって、オリーブ油を塗って祈る」というのは、イエス様と聖霊の臨在の中で、病気の癒しのために祈るということでもあるのかもしれない。ちなみにカトリックでは、七つの秘跡の一つに「病者の塗油」というものがあります。まさしく今日の聖書箇所を根拠に、病人または臨終にある人に、司祭が油を塗って祈ることが現代でも行われています。

いずれにしても、病気時には、自分だけで祈るのではなく、教会の牧師や長老たちに祈ってもらうことが大切なのです。もちろん医療機関を用いることは大切ですが、私たちは命と死を支配しておられる神様、またかつて多くの病人を癒やしたイエス様と聖霊の臨在のもとで祈ることも大切なのです。

### 3. 信仰による祈り

さてこれまで、苦しい時には祈るように、また病気時には牧師や長老に祈ってもらうようにとありました。では、苦しい時また病気の時、私たちはどのような祈りをしたらよいのでしょうか。15 節には、こうあります。「**信仰による祈りは、病んでいる人を救います。主は**

**その人を立ち上がらせてくださいます。もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます」。**

私たちは、苦しい時また病気の時には、「信仰による祈り」をするようにと言われます。「信仰による祈り」は、病んでいる人を立ち上がらせ、罪の赦しへと導きます。つまり、「信仰による祈り」は、身体と魂の両方を癒やし、救うようになるのです。

ここでは、病気と罪の関係が語られています。私たち人間には、因果応報の考え方があります。人は自分の行いによって報いを受けるというものです。そのため、病気の原因に、その人の罪があると考えられることがあります。しかし聖書は、すべての病気の原因が、その人の罪にあるわけではないと教えています。例えば、旧約聖書のヨブは、足の裏から頭の頂まで、悪性の腫物で侵されましたが、それはヨブが試練の中でも神様を恐れるかを試すためのものでした。またイエス様は、生まれつきの盲人を見て、「**この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。この人に神のわざが現れるためです**」(ヨハネ 9:3)と言われました。またパウロも肉体に一つのとげを与えられましたが、それはパウロが高慢にならないため、またその弱さにイエス様の恵みと力が現わされるためのものでした。ですから、すべての病気の原因が、その人の罪にあると考えることはできません。

しかし 15 節で、「もしその人が罪を犯していたなら」とあるように、その人の罪が原因である病気もあると聖書は教えているように思います。Ⅰコリント 11 章でパウロは、聖餐式にふさわしくない仕方で、つまり自分自身をよく吟味せず、わきまえずに与った場合、「弱い者」「病人」「死者」が出るとあります。つまり神様の「懲らしめ」としての病気というのがあると言うのです。

しかし「信仰による祈り」は、その人の病気を癒やし、その人に罪の赦しを与え、その人の身体と魂の両方を救うことができると言うのです。

#### **4. 大きな力が働く祈り**

では、「信仰による祈り」とは、具体的にどのような祈りでしょうか。16 節には、こうあります。「**ですから、あなたがたは、癒やされるために、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、働くと大きな力があります**」。

「信仰による祈り」とは、ここでは「正しい人の祈り」と言い換えられています。「正しい人」とは、神様によって義と認められた人です。つまり、イエス様を信じることによって、神様の御前に罪を赦され、神様の御前に「正しい」と認められた人です。これは、イエス様はその人の罪を十字架で償い、その人の代わりに神様に完全に従われたからです。「正しい人」は、決して罪を犯さない人ではありません。16 節にあるように、自分の罪を認め、イエス様を信じ、互いのために祈る人のことです。そういう人の祈りこそ、働くと大きな力があり、病気を癒やし、罪の赦しを与え、人を身体と魂の両方において救うことができると言うのです。

ここには、「癒やされるために、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい」とあります。私たちの祈りに力を持つには、私たちはまず、神様に対する自分の罪を認め、神様の御

前に告白しなければなりません。旧約聖書のイザヤ 59：1-2 には、こうあります。「**見よ。主の手が短くて救えないのではない。その耳が遠くて聞こえないのではない。むしろ、あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ**」。私たちは祈りにおいて、神様にあらゆる願いをささげ、求めていることを打ち明けます。しかし私たちは、神様が私たちに求めていることに耳を傾け、神様が私たちに願っていることをしているでしょうか。私たちは神様に求めるけれども、神様が私たちに求めていることは無視する、自分の求めていることは神様に聞いてほしいけれども、神様が私たちに求めていることは聞かない、それでは神様に無視されても、祈りを聞かれなくても何も文句は言えないのではないのでしょうか。神様の言うことは聞かないけれど、自分の言うことは神様に聞いてほしい、それがいかに無茶苦茶な祈りであるか、よく分かっていただけだと思います。

「癒されるために、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい」とあります。私たちは、神様に祈る前に、まず神様が私たちに何を求めておられるかを考えなければなりません。神様は人格のない方ではありません。神様には、私たちに求めておられることがあります。それは、聖書の中に書かれています。神様が私たちに求めておられること、それは自分の罪を認めて悔い改めて、イエス様を信じることです。そしてイエス様の御名のゆえに、祈ることです。それこそ、「信仰による祈り」であり、「正しい人の祈り」です。そう祈りこそ、働くと大きな力があり、病気を癒やし、罪の赦しを与え、人を身体と魂の両方において救うことができるのです。

## **おわりに**

私たちは日々の生活の中で、どれだけ神様に祈っているでしょうか。私たちイエス様を信じるクリスチャンの祈りは、働くと大きな力があるのです。時には、病んでいる人を癒やし、その人の罪を赦し、魂を救うこともできるのです。私たちは苦しい時、まず神様に祈っているでしょうか。それとも自分の力で何とかしようと思って、右往左往しているでしょうか。また喜んでいる時、元気な時、平安の時には、神様に感謝し、賛美しているでしょうか。それとも幸せな生活は自分の手で手に入れたかのように考えているでしょうか。

病気の時には、自分一人で抱え込まずに、牧師や長老に祈ってもらっているでしょうか。また教会のみんなに祈ってもらっているでしょうか。

また私たちは、自分の願いを神様に求めるだけでなく、神様が私たちに求めていること、願っていることにも耳を傾けているでしょうか。私たちと神様との関係が一方通行になっていないでしょうか。

神様は決して罪を犯さない人の祈りを聞いてくれるのではなく、自分の罪を認めて悔い改め、イエス様を信じ、イエス様の御名によって祈る人の祈りを聞いてくださるのです。

私たちはもっと祈りの力を信じていきましょう。

天におられる私たちの父なる神様。

すべての人間には、祈る心があります。生まれながらに人間の力を越えた大きな存在を感じています。しかし、私たちの罪のゆえに、その心や祈りがあなた以外の偶像に向けられています。それらの偶像には何の力もありません。しかしあなたは、生ける唯一のまことの神様です。あなたは祈りを聞かれる唯一の方です。私たちの人生には、苦しい時も病の時もあります。私たちの力ではどうにもならないことが起こります。私たちは、その時に、「信仰により祈り」をささげることができますように。自分の罪を認めて悔い改めて、イエス様を信じ、イエス様の御名によって祈ることができますように。

また逆境の時だけでなく、順境の時にも、あなたに感謝と賛美をささげることができますように。今週もあなたに祈りながら歩めますように。この祈り私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。